

植物と人々の博物館メールマガジン

第 96 号 2023 年 2 月 9 日発行



タンポポ、オオイヌノフグリ、コブシ、ミツマタの一番花を見ました。春も近いですね。先月は子どもたちとカルタをして、奴ダコを上げ、ゴム動力飛行機を飛ばしました。まだ字も読めない幼児がカルタで読む真似をしては、取った、ちゅごいと言いついて、とらわれない遊人は面白いです。

素のままの美しい花々、物事、作品、言葉、その中に真情を見いだしては称賛し、日々の暮らしの中で共感し、結び、希望を求めて励まし合いたいです。ぜひ友の会会員になってくださり、一緒に植物をめぐる生物文化多様性、在来品種の保全のための調査研究や普及活動にご参加ください。

1. 植物と人々の博物館

友の会会員になって、一緒に博物館づくり活動をしてくださると嬉しいです。

○予定

- 1) 開館・作業予定日：ウィルス対策で、しばらく休館します。
- 2) 公共の場における再公開について、新たな可能性を探りながら、試案を検討しています。
- 3) 民族植物学ノオト第 16 号は 3 月末に発行します。第 15 号までのすべての記事 pdf は植物と人々の博物館ホームページ（下記：ミュージアムグッズの項）で読めます。
<http://www.ppmusee.org/goods.html>

4) 電子書籍：

一部公開中の雑穀の民族植物学関係の書籍、自選集 III『日本雑穀のむら』は完結し、日本全国の調査記録および補論 6 として東アジアについてもまとめ公開しました。

www.milletimplic.net/milletsworld/milletsn/jnpmilvil.html

続いて自選集 IV『雑穀の民族植物学—インド亜大陸の農山村から』は第 3 章インド亜大陸の食文化、第 4 章南インドの雑穀文化複合をまとめています。同時に、これらのまとめとして自選集 V “Essentials of Ethnobotany” の一部公開を進めます。自選集 VI『随筆集—生き物の文明への黙示録』に順次新作を追加しています。

- 5) 公式 HP：植物と人々の博物館 <http://www.ppmusee.org/> に含めて民族植物学関係 HP：生き物の文明への黙示録も国会図書館インターネット資料収集保存事業 (ndl.go.jp) で毎年 1 回収録されます。 <http://www.milletimplic.net/>

6) 森とむらの図書室への寄贈など

「お米の勉強会会報」「クリンネス」「現代農業」「うかたま」「地域」「環境と文明」、「つぶつぶ」、「女性のひろば」、『四国遍路』（鈴木佐江子 2021）などをいただきました。ありがとうございました。

7) 植物と人々の博物館基金 PPM Foundation

大口寄附ではなく、できるだけローテクで貯金箱に眠っている 1 円玉からする任意募金を以前から考えていました。植物と人々の博物館の維持のために会員になってくださるか、ご寄付あるいは整理作業のご協力を、よろしくお願いします。ご寄付を頂き、ありがとうございます。自然文化誌研究会に基金費目を設けました。雑穀街道普及会も含めて、費目指定でご寄付をいただけるとありがたいです。郵便振込口座は下記です。

口座名義：特定非営利活動法人自然文化誌研究会

口座番号：00100-2-665768

今後、計画が進行するようなら、クラウド・ファンディングや助成・補助も考えていると思います。

8) 月刊「クリンネス」へのエッセイ隔月連載は今年も続けます。去年は花の香でしたので、本年は花の色を話題にします。季刊「つぶつぶ」への連載、雑穀栽培篤農伝も書きます。

2. 自然文化誌研究会

総会：2 月 18 日 11:30～13:00 Zoom

3. 雑穀街道普及会：

この活動は、中川さんや編集子のような、出アフリカ古層 A 型の子孫、縄文人の末裔を自認するものは自然と共存して生業を継承し、過剰便利に抵抗して雑穀栽培を伝承してきました。縄文土器を博物館に展示することも大事ですが、先人が生きたまま継承してきた雑穀の種子を切らさないことにも関心を向けていただきたいと思います。かさねて、日本列島における縄文農耕の歴史、その伝統的知識体系の蓄積を絶やさないように、もう時が迫っているので、消滅させないように切にご助力をお願いします。

○報告

1) 雑穀街道協議会準備会づくり：

① FAO 世界農業遺産の申請団体となる雑穀街道協議会を創るために、準備活動を進めています。現況は下記のサイトにあります。

<http://www.milletimplic.net/milletsworld/milletstrasse/approval22811.pdf>

② 説明冊子第 3 版を発行しました。相模原市南区の勝坂遺跡を加え、改訂しました。雑穀街道地域は縄文時代中期の勝坂土器文化圏に重なります。印刷物を配布くださる方には必要部集を郵送します。第 3 版はなくなりました。新たな対応があれば、第 4 版を印刷しますので、加筆修正について、ご意見を頂けるとありがたいです。

<http://www.milletimplic.net/milletsworld/milletstrasse/ms22n3v.pdf>

2) 相模原市長には 2 月 8 日にお目に掛かりました。副市長や区長を含めて 10 名ほどの職員が出席くださり、雑穀街道普及会関係者は宮本、木俣、梶間、中野、橋本が参加しました。前向きにご検討いただけたような感触でした。

3) 自給農耕ゼミ（佐野川）：

時期に応じてお誘いします。簡単な栽培方法は次のサイトにも公開してあります。
家庭菜園や雑穀に関するご質問にはメールくだされば、いつでもお答えします。

<http://www.milletimplic.net/weedlife/farmsklec8p.pdf>

自給農耕ゼミと一緒に、佐野川の宮本さんの畑で収穫したキビとホップは山口さんの醸造所をお願いして発泡酒にする予定で、1月23日に打ち合わせをし、国際雑穀年記念発泡酒としての下記の企画案を作成しています。ご意見いただければありがたいです。

4) 藤野あわきびひえの会と相模湖里山暮らしの会ちーむゴエモン

1月23日に打ち合わせをして、雑穀街道普及会の賛同団体になっていただきました。

5) 佐野川の宮本茶園で栽培したモロコシを脱穀、精白仕立てを、自給農耕ゼミなどにご参加くださった方に、お礼として100gほどですが差し上げました。ごはんに混炊すると、赤飯のようになりおいしいです。

6) 雑誌・新聞などの取材と寄稿

「つぶつぶ」2023 新年号、「女性のひろば」、「農民」、「農業新聞」、「土と健康」、「雑穀研究会誌」、「食べもの通信」など。

7) 家族農林漁業プラットフォーム・ジャパン FFPJ 第21回オンライン連続講座

1月20日、80名ほどの申し込みで、50名ほどが聴講くださったようです。

話題提供：木俣美樹男、日本における麦・雑穀・豆類の栽培はなぜ衰退したのか
資料は下記で、いずれ動画もユーチューブで公開されます。

<http://www.milletimplic.net/university/pelcivicuu/famfarmlec2.pdf>

家族農業プラットフォーム・ジャパン FFPJ 第21回講座の報告ページは下記です。

<https://www.ffpj.org/blog/20230131-2>

雑穀街道普及会は下記ホームページに活動の現況や関連資料を順次更新していきます。

<http://www.milletimplic.net/milletsworld/millstr.html>

なお、50年間、定点参与観察、調査研究してきた『日本雑穀のむら』第3章関東地方・第4章関東山地で、雑穀街道地域の調査研究の成果（1974～2017）をまとめてあります。<http://www.milletimplic.net/milletsworld/milletsn/jnpmilvil.html>

雑穀街道普及会の会員や賛同者になっていただければうれしいです。趣意書や会則など、さらに「街道美味」は雑穀製品、佐野川茶やクラフト・ビールを紹介していますので、下記のホームページをご覧ください。会費や寄附は任意で、個人の意思を尊重し、あえて納入規定は設けていません。趣旨の賛同していただき、会員になっていただくようお願いしています。

遠くアフリカ、インドなどから極東にまで伝播してきて、縄文後晩期以降数千年、この島嶼に住む人々の命の糧であった数種の雑穀、日本における伝統的な雑穀栽培はいよいよ絶滅しそうな状況にあります。生きた文化財、雑穀や野菜の在来品種は種継をしなければ、死んでしまい、もう生き返らせません。生物文化の伝統的知識も継承されません。全国各地の伝統的雑穀栽培を継承する最後の篤農が90歳を超えようとしています。雑穀農耕文化複合は日本の山村が世界に誇る生きた文化財として、今を限りに絶滅させないように継承すべきです。雑穀街道を FAO 世界農業遺産に登録申請する提

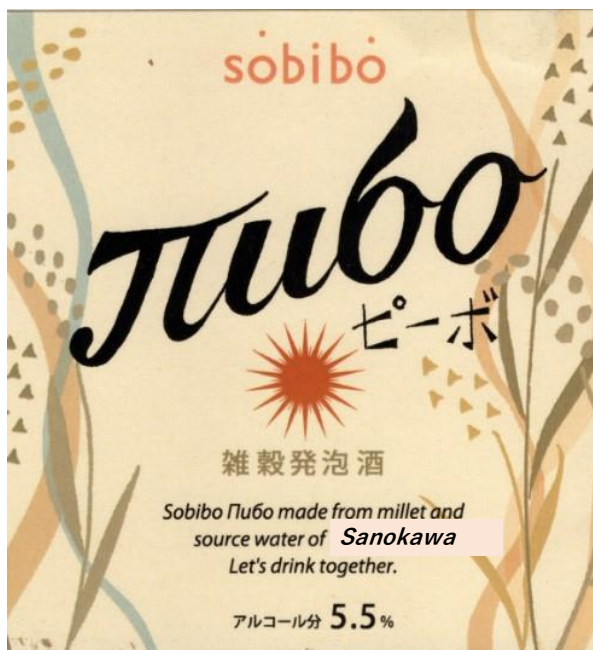
案普及を続けます。広い心をもって、個人も地域社会も全国へ、さらに世界の起源の地にまで街道を繋げて行ってほしいです。2023 年は国際雑穀年になります。どうぞご助力いただけますようお願いします。

8) FAO 日本連絡事務所

昨年 10 月から再三、面会の上での助言を求めていましたが、なかなか回答がありませんでした。やっと返信があり、国際雑穀年のロゴは無償のお活動には使用してよいが、忙しいので面会はできないとのことでした。

9) (提案) 雑穀発泡酒ソビボ・ピーボ 復刻企画

目的：国際雑穀年を記念し、雑穀街道を FAO 世界農業遺産に登録する活動を普及促進するために、雑穀発泡酒ソビボ・ピーボ（素美暮発泡酒）を復刻します。雑穀街道美味の新商品になることを期待します。仮ラベル



雑穀街道を世界農業遺産に登録しよう

麦芽使用率 x x % 以上
Z z 産麦芽 70 %
その他の材料：相模原市緑区産
日本の里 100 選佐野川の水 100 %
キビ 30 %、ホップ

内容量 330ml



国際雑穀年記念2023

雑穀街道普及会

材料・醸造関係

1) 宮本茶園において、自給農耕ゼミ（佐野川）で栽培したキビ 10kg、およびホップを使用します。製法は前回のマイクロブルワリー（馬場さん）と同じ予定です。中国山東省で「会盟を誓う固めの杯」に用いたキビの即墨老酒は、焙煎工程を加えて、紫色を帯びた濃褐色であり、独特の芳香と苦味、やや酸味のある甘さをもち、黒ビールに似ているといいます。これに似てソビボ・ピーボはイギリスのギネスビールのような味わいになります。

2) 藤野の Jazz Brewing Fujino（山口さん）で醸造します。

2018 年、神奈川県相模原市にある陣馬山の麓にオープンした超小規模醸造所。日本の里山百選にも選ばれた旧藤野町佐野川の名水を使用し、非加熱、無濾過。使用している酵母は仕込み毎に使い切りの純粋培養された活性度の高い

酵母でこだわりの醸造を行っています。

3) 価格は 6 本、送料込み 5,500 円でネット販売されています（遠隔地は送料が異なります）。これに加えて標記目的のために、よろしければ、任意のご寄付を加えていただければうれしいです。

仮予約方法

企画へのご質問や仮予約申込先は雑穀街道普及会、事務幹事 木俣に下記メールでお願いします。 kibi20kijin@yahoo.co.jp

仮予約が限定 50 口になりましたら、改めてご連絡し、代金などをお振込みいただきます。醸造を始め、1 月ほどでできます。冷蔵で 1 年間保存できますが、でき立てのほうがおいしいので、まず事前に仮予約を頂きます。1 ロット 330ml 瓶 300 本、製造価格約 20 万円、これらにラベルデザイン・印刷代、送料などの経費が加わります。

企画団体：植物と人々の博物館／日本村塾自給農耕ゼミ（佐野川）、雑穀街道普及会ほか

4. 環境学習市民連合大学 Civic United University for Environmental Studies

セミナーの動画や予習・復習資料 pdf などは下記のサイトにあります。

<http://www.milletimplic.net/university/civicuues.html>

多くの世代が信頼の下に、ともに話し合い、深く考えて環境問題の解決を広く探りたいです。人々との間に信頼を築きたいです。セミナー座談会への参加希望やご質問などは下記にメールください。現在、小金井環境市民会議の都合で、環境学習会は休止していますが、自給農耕ゼミは引き続き開催しています。

内容についての連絡先：kibi20kijin@yahoo.co.jp 木俣美樹男（企画室事務担当）

環境学習市民連合大学は環境学習の理論と実践を普及啓発する目的で、ウェブサイトを作っています。環境学習・保全 NP04 団体と 3 個人から出発した市民大学です。主旨は、市民社会の自由、平等、友愛を基本原則として、自らが学び合う環境学習市民連合大学をリンク・ページとして、インターネット上で運営することです。ヨーロッパの 12 世紀ルネサンスの先駆けとなった原初の大学は学び合いたい人々の学習者組合でした。都市を旅しながら教師も学生も互いに学びの自由を守護し合い、共助していました。入学資格、試験、授業料、卒業資格はありません。どなたでも、学び合いたい人々が自由に集まるのです。

今この時、人新世の変曲点で、人生における学ぶ意味について改めて考え直し、再びルネサンス生き物の文明を日本から起こしたいです。この市民大学は任意無償提供の学習素材、任意寄付で維持します。この提案にご賛同の方々の参加（リンクなど）を広く求めます。よろしくご連絡をお願いします。最近の録画、話題資料メモは上記 CUUES サイトにあります。

<http://www.milletimplic.net/university/civicuues.html>

○ 報告

第 8 回自給農耕ゼミ（小金井）、2 月 5 日（日） 15 名参加

場所：小金井市中町カエルハウスおよびオンライン（zoom）

話題提供：富澤太郎さん、上野原市西原の農家、**話題：**雑穀街道、西原の暮らしの実際について語っていただいて、共感を得ました。豊かで厳しい暮らし、住民 400 名をきるのは目前のようです。また、今後の運営について話し合いました。

○予定

第 6 回自給農耕ゼミ（小金井） ※昨年 7 月の延期分を行います

日時：4 月 15 日（土）13：30～16：00 **集合・解散場所：**JR 東小金井駅北口

場所：小金井市関野町、梶野町の玉川上水周辺（定員：15 名）

プログラム：

話題：「明日につなぐ風景～東小金井・梶野町の民有地が彩る H A N A N A と緑」

案内：小谷俊哉さん（小金井市環境市民会議、NPO 法人グリーンネックレス）

要旨：市民参加や民有地所有者が携わってきた東小金井・梶野町周辺の緑を巡検します。1964 年に全国初の請願駅として開業した東小金井駅の周辺は、2000 年に始まった JR 中央線の高架化事業を皮切りにその姿を大きく変えてきました。一方、江戸時代に玉川上水から分水を引くことで開拓が進んだ東小金井駅北側一帯の梶野町は今でも屋敷林や農地が点在し、東小金井駅から北の小金井公園の間をみどりと水路でつないでくれています。この梶野町で、長年たくさんの花で彩られた農地とアパートを営み、多様な樹木から成る屋敷林の中で住まわれていた瀧島義之さんが昨年 1 月に亡くなりました。花と緑を愛し、2004 年の陳情に始まり屋敷林を残すことに精力を傾けた故人の足跡を辿りながら、新旧の東小金井駅北口周辺を巡り、「明日につなぐ風景」に向けて私達ができることは何か、参加者のみなさまと一緒に考えます。

協催：カエルハウス運営委員会、NPO 法人グリーンネックレス、

NPO 自然文化誌研究会／植物と人々の博物館／雑穀街道普及会

申込み連絡先：042-316-1511（カエルハウス運営委員会）または

office@katayamakaoru.net 資料代 300 円

参加申込みをしてくださった方には詳細な案内をお伝えします。

*このゼミの動画、話題資料などは、市民社会の自由、平等、友愛を基本原則として、互いに体験と知識など学び合う環境学習市民連合大学の下記サイトで一般公開します。

<http://www.milletimplic.net/university/civicuues.html>

*内容についてのご質問は kibi20kijin@yahoo.co.jp 木俣美樹男（企画室事務担当）

5. 国際雑穀年記念・つぶつぶ雑穀パワーフェス

オンライン・イベント・全 3 回（ZOOM ウェビナー使用・定員 500 名）90 分＋シェアリング 30 分（参加費：無料）

申込ページはこちら→<https://zakkokunen.hp.peraichi.com/>

（目的）雑穀・つぶつぶの魅力（おいしさ×栄養価＝パワー）と重要性（保存性：飢饉対応・危機対応・生命文化遺産）を広く伝え、多くの方に興味を抱いていただき、

この動きに賛同・協力・参加していただき、雑穀料理＝未来食つぶつぶ、や木俣 美樹男氏の提唱する「雑穀街道」を FAO 世界農業遺産への登録申請を後押しする。

○報告

第一回 2023 年 1 月 21 日（土）、雑穀は未来食で美味しい！」

150 名ほどの申し込みがあり、70 名ほどが ZOOM 参加しました。とても賑やかな演出で楽しかったと思います。

○予定

第二回 2023 年 2 月 18 日（土）19:00～21:00

「つぶつぶは歴史的・風土的なからもの」

日本における位置付け、日本の食を紐解いて、歴史的に見た今の食の問題。

そして未来食へ。そしてさらに世界発信へ！（約 50 分）

音楽ライブ生中継（from 南阿蘇）：Upepo Upopo（約 10 分）

ナビゲーター：伊藤信子（一般社団法人ジャパニーズビーガンつぶつぶ代表理事）、中野岳春（NPO 法人トランジション・ジャパン理事）

『果てしない雑穀の物語』トークゲスト（二人でインタビュー形式で）：木俣美樹男（農学博士・東京学芸大学名誉教授）、伊藤信子。

大谷ゆみこ：ベジタリアン向け講座ビデオ（約 20 分）

質問タイム（約 10 分）

第三回 2023 年 3 月 18 日（土）19:00～21:00

「つぶつぶクッキングと自給農耕で自立する！」

1 反（300 坪）の雑穀畑と未来食で食と経済の自立ネットワークを育てよう。

大谷ゆみこ：つぶつぶ新嘗祭ビデオ。（約 20 分）

ナビゲーター：伊藤信子、大西和信（ワノサト・エコビレッジ・プロジェクト）

トークゲスト：岩崎信子（埼玉県小川町・畑へおいで！＋つぶつぶ料理）、富澤太郎（上野原市西原やまはた農園）、宮本透（藤野・お茶農家）（約 40 分）

音楽ライブ生中継（from 南阿蘇）：Upepo Upopo（約 10 分）

インフォメーション：ミニ栽培体験会、ライフシード・キャンペーン、新刊出版案内。Q&A（約 20 分）

また各会を通じて、「国際雑穀年」であること。それに向けて雑穀街道を FAO 世界農業遺産に登録申請する事の応援をアピールする。

主催：ワノサト・エコビレッジ・プロジェクト

共催：一般社団法人ジャパニーズビーガンつぶつぶ

協力：NPO 法人トランジション・ジャパン、雑穀街道普及会、(株)フウ未来生活研究所、トランジションタウン小金井、NPO 法人自然文化誌研究会、植物と人々の博物館、農と食女性協会。

問合せ：つぶつぶ雑穀パワーフェス事務局 info@tubu-tubu.net TEL 03-3203-2090

6. 桂川・相模川流域協議会市民部会

令和 5 年 2 月 11 日（土）13:00～16:00

~~~~~

## 植物と人々の博物館 (山梨県小菅村) : 館長 : 木下善晴、顧問研究員 ; 安孫子昭二

研究員 : 木俣美樹男 (東京、専任、担当運営委員)、西村俊 (石川、担当理事)、井村礼恵 (東京、担当運営委員)、川上香 (長野)、渡辺隆一 (長野)、Sofia M. Penabaz-Wiley (千葉)、伊能まゆ (ヴェトナム) ほか

公式 HP : 植物と人々の博物館 <http://www.ppmusee.org/>

雑穀街道普及会 <http://www.milletimplic.net/milletsworld/millstr.html>

事務担当幹事 メールマガジン発行 : 木俣美樹男 [kibi20kijin@yahoo.co.jp](mailto:kibi20kijin@yahoo.co.jp)

栽培担当幹事 : 宮本透

民族植物学関係 HP : 生き物の文明への黙示録 <http://www.milletimplic.net/>

エコミュージアム日本村 / ミューゼス研究会 / トランジション小菅 (山梨県小菅村) :

代表 亀井雄次 (山梨小菅村)

自然文化誌研究会 : 代表 中込卓男 (東京)、副代表 中込貴芳 (東京)、小川泰彦 (埼玉)

<http://www2.plala.or.jp/npo-inch/>

事務局長 : 黒澤友彦 (山梨県小菅村) [npo-inch@wine.plala.or.jp](mailto:npo-inch@wine.plala.or.jp)

環境学習市民連合大学 <http://www.milletimplic.net/university/civicuues.html>

企画室事務担当 : 木俣美樹男 [kibi20kijin@yahoo.co.jp](mailto:kibi20kijin@yahoo.co.jp)

~~~~~

写真



凍りついた野川



ミツマタ

祈り

大震災に続く原発事故。

世界を襲うコロナ。

頻発する大洪水や森林大火災。

熱波来襲。

氷河の崩落。

台風の巨大化やサンゴ礁の白化。

そして人間世界における強権弾圧と戦争。

これら複合災禍による世界経済の迷走。

歴史上まれに見る天変地異の時代である。

わたしが世界放浪の旅に出た今から半世紀前

世界はまだのどかだった。

自然と共生した人間生活の息吹が残っていた。

幸いにもわたしはそんな日々を旅することができた。

そして一心に写真を撮り、言葉を發した。

ときには死の危険を冒してさえ

その世界に分け入ったのは

ひょっとすると目の前の世界が

やがて失われるのではないかという

危機感と予感があったからかもしれない。

その意味において

わたしにとって目の前の世界を写真に撮り

言葉に表すことは

『祈り』に近いものではなかったかと思う。

藤原新也



祈りという表題に魅かれて、世田谷美術館に行きましたが、写されていたのは世俗の鈍い恨みだったように感じて、がっかりしました。



コブシの一番花